

## イエス、弟子たちに現れる

ヨハネによる福音書 20:19-31

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがた

が、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

## 説教

いま朗読したようにイエスは復活し、弟子たちに現れました。

復活したイエスは正真正銘の救い主となりました。

もしイエスに復活がなく地上のイエスだけだとしたら、おそらく福音書が書かれることはなかったでしょう。たしかにイエスは善い行いおこなった方ですが、善行をおこなうだけならばイエスのほかにもいたはずです。イエスは道徳的にも倫理的にもすぐれたお人でした。イエス以外にも道徳的にすぐれた人、倫理的に立派な人はたくさんいます。そしてその行いをたたえ記録した書物もあります。イエスが唯一無二なのは復活・昇天したからです。この点がイエス以外のすぐれた人物とのおおきな違いです。

ユレーイやおばけは死んだのにでてきます。復活も死んだはずなのに現れるのでその点で似ています。よい人が死んだのにでてくるのならいいのですが、悪い人がばけて出てくるのはゴメンです。

復活のイエスが弟子たちにあらわれ、彼らに息を吹きかけた後、ピラトやヘロデのところに行ってちょっと懲らしめたとしたら復活のイエスはいったいなんなんだ、となります。でもそんなことはどこにも記録されていないしありえないでしょう。

神のみ子イエスさまはわたしたち人間に死を教え、また死んだ後を教えるために復活なされたのかもしれませんが。わたしたちはペンテコステまで復活のイエスの神秘を思い主の恵みにあずかりましょう。

---